



事業報告書 2019

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

南近畿から広がる 新しい未来への扉

連携機関



事業実施責任者 ごあいさつ

大阪市立大学、大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社は、2017年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に選定されました。本事業の実施にあたり、代表機関である大阪市立大学と、共同実施機関である大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社は、「連携機関長会議」及び「連携機関連絡会議」を発足し、連携して、ダイバーシティ研究環境整備、女性研究者の研究力向上・リーダー育成、女性研究者の上位職登用促進に取り組んでまいりました。また、同時に女性研究者の活躍促進、国際的なリーダー育成を図る「南近畿圏共同研究プラットフォーム」の構築を進めています。

事業3年目にあたる2019年度は、女性研究者の共同研究を促進するための助成を行う「連携型共同研究助成」や、積水ハウス株式会社との共同研究プロジェクト「産学官連携ウイメンズユニット」を通じた女性研究者の活躍推進、南近畿圏の共同研究の拡大により「南近畿圏共同研究プラットフォーム構築」の基盤ができました。外部資金獲得セミナーやマネジメントに関わるセミナーなどは、TV会議システムを活用して複数の連携機関で同時に開催し、女性研究者の研究力やスキルアップを図ってきました。また、介護・育児支援に関わる制度を導入し、連携機関の間で利用を促進しました。さらに、国際的なネットワークの進展により、海外の先進的な女性研究者支援事例から多くを学ぶことができ、女性研究者の国際的な共同研究が促進されました。女性研究者の採用・在職者比率の上昇、上位職の一層の登用促進を目指して、南近畿の産学官連携および国際連携を進めていく所存です。

南近畿圏に拠点を持つ多様な機関が連携して取り組む本事業が、周辺機関にプラスの波及効果をもたらしつつ、発展拡大していくことができますよう、今後とも皆様の一層のご支援とご協力を賜りたく存じますのでよろしくお願い申し上げます。

2020年3月
大阪市立大学（代表機関）
女性研究者支援室長・学長補佐

宮野 道雄

目次

事業実施責任者 ごあいさつ	1
I 事業概要	3
II ダイバーシティ研究環境整備	5
連携機関長会議と連携機関連絡会議	
ダイバーシティ保育サポーター	
SOGI への取り組み	
研究支援員制度	
保育サポート事業	
介護相談窓口	
総合相談窓口	
女性研究者ネットワークシステム	
広報・啓発活動	
III 女性研究者の研究力向上・リーダー育成	9
連携型共同研究助成	
「産学官連携ウイメンズユニット」による共同研究プロジェクト	
研究発表交流会	
キャリア研修・研究力向上セミナー	
女性研究者メンタープログラム	
女性研究者外国語論文校閲・翻訳費助成事業	
企業インターンシップ	
研究施設の共同利用	
IV 女性研究者の上位職登用促進	16
女性管理職育成のためのキャリア研修／管理職研修	
プロモーションメンタープログラム	
クロスアポイントメント制度	
V 各連携機関のその他の取り組み	18
大阪市立大学	
大阪教育大学	
和歌山大学	
積水ハウス株式会社	
VI 主な取り組み一覧	22

I

事業概要

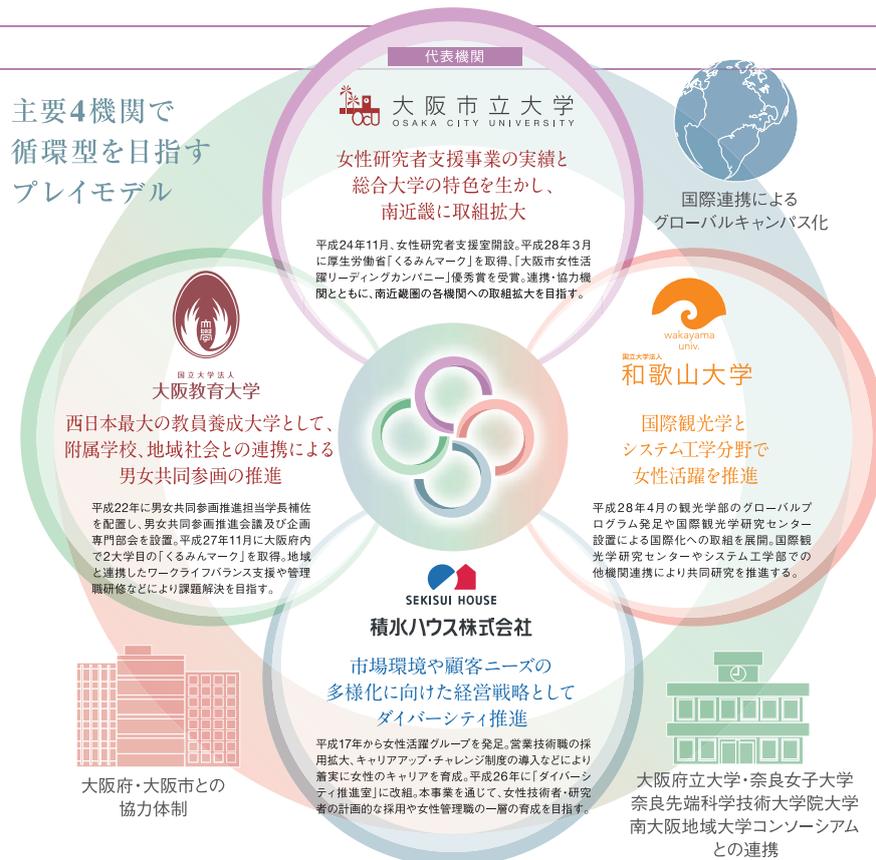
本事業は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、次の3つの取り組み－1) 女性研究者のライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮したダイバーシティ研究環境整備、2) 女性研究者の研究力向上・リーダー育成、3) 女性研究者の上位職登用促進－を中心に実施します。「牽引型」は、大学や研究機関が企業等と連携し、連携する各機関をはじめ、その他の機関を含めた地域や分野における女性研究者の活躍促進を牽引する取り組みを行います。事業期間は、2017～2022年度の6年間です。

代表機関の大阪市立大学は、都市型総合大学としての総合力と特色（生活科学研究科の存在など）を生かし、産学官連携による女性研究者のキャリア形成と人材交流を促進するとともに、国際的有力大学との連携を通じてグローバルキャンパス化を図り、女性研究者の活躍促進、国際的なリーダー育成を目指した「南近畿圏共同研究プラットフォーム」構築を進めます。

共同実施機関である積水ハウス株式会社は、市民に開放されたオープンイノベーション研究拠点を活用して、産学官連携による「新しい住文化」に関する創造的な提案を行います。

大阪教育大学や和歌山大学との事業の共同実施を通じて、本事業は南近畿の企業や研究機関へと連携を拡大します。

【連携体制】



【連携機関】

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 大阪市立大学 女性研究者支援室 | : http://www.wlb.osaka-cu.ac.jp/ |
| <input type="checkbox"/> 大阪教育大学 男女共同参画推進会議 | : https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/jinji/diversity/index.html |
| <input type="checkbox"/> 和歌山大学 男女共同参画室 | : http://web.wakayama-u.ac.jp/equal/ |
| <input type="checkbox"/> 積水ハウス株式会社 ダイバーシティ推進部 | : https://www.sekisuihouse.co.jp/company/diversity/ |

【3つの取り組み】

1. ダイバーシティ研究環境整備

- 研究支援員制度
- ダイバーシティ保育サポーター
- 介護相談窓口の開設
- 保育サポート事業（保育利用料補助事業）

2. 女性研究者の研究力向上・リーダー育成

- 「産学官連携ウィメンズユニット」による共同研究プロジェクト
- 連携型共同研究助成事業
- キャリア形成・研究力向上セミナーの実施
- 女性研究者メンタープログラムの実施
- 国際シンポジウムの実施

3. 女性研究者の上位職登用促進

- 女性管理職育成のためのキャリア研修・管理職研修の実施
- プロモーションメンター制度の実施
- クロスアポイントメント制度
- 管理職の人事交流の実施



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

ホームページ：<https://diversity-oows.jp/>

II

ダイバーシティ研究環境整備

【連携機関長会議と連携機関連絡会議】

本事業を連携機関が協働して実施するために、昨年度に引き続き「連携機関長会議」及び「連携機関連絡会議」を実施しました。「連携機関長会議」では、連携機関の機関長が事業の進捗状況を共有し、数値目標達成や事業の課題について協議しました。「連携機関連絡会議」では、本事業の実施責任者等が具体的な事業計画の立案や進捗管理を行いました。

【ダイバーシティ保育サポーター】

連携機関の大学キャンパス等で一時保育（学童保育等）を行う際の支援者「保育サポーター」を養成するため、今年度も大阪教育大学において学生や地域住民を対象に「保育サポーター養成研修講演会」を実施しました。「保育サポーター」に登録している大阪教育大学や大阪市立大学の学生・教職員は、学童保育プログラム「キッズサマーキャンパス 2019」（大阪教育大学で開催）の運営に参画するなど、女性研究者の子育て支援を行いました。

■ 学童保育プログラム「キッズサマーキャンパス 2019」

【2019年8月21日（水）・22日（木）】 会場：大阪教育大学 参加：21日29名、22日28名

大阪教育大学柏原キャンパスにて、連携機関の教職員の子どもを対象とした短期託児プログラムを開催し、幼稚園児から小学校5年生までの子どもたち延べ57名が参加しました。当日は、大阪教育大学の学生や教員が企画した科学体験プログラムや、家族が働く場所の見学等が行われ、参加した子どもたちからは「お父さんお母さんの働いているところが見られて嬉しかった」「面白かった！また参加したい」という声が聞かれました。また、子どもを参加させた保護者からは、「子どもたちにとって職場を見学したり、様々なプログラムを体験したりしたことは貴重な機会だった」「サポートしてくれた学生とも仲良く過ごせたようで、将来、このような学生たちが先生になることを想像すると楽しみです」などの感想をいただきました。



■ 保育サポーター養成研修講演会 第1回「アナログゲームで育む子どものちから」

【2019年11月27日（水）】 会場：大阪教育大学 参加：26名

講師：畑 直樹（Kleeblatt 株式会社 代表取締役）

第1回は、保育・教育界で日本唯一のアナログゲーム専門家として幅広く活躍する畑直樹氏が、ゲームのコミュニケーションツールとしての活用と子どもの能力養成について講演しました。セミナーでは実際に様々なアナログゲームを使い、同じゲームでも自分たちで話し合ってルールを変えたり、ゲーム中のコミュニケーションの取り方を工夫してみる等のワークも行いました。

畑氏は保育士としての経験のなかでドイツのおもちゃに魅了されたことをきっかけにドイツ留学し、ドイツの保育現場で培われてきたアナロ



グゲームの魅力について話しました。なかでも「アナログゲームは必ず人と接しなければならない遊びであり、どうしたらみんなが楽しく遊び続けられるのか、ルールをみんなで考えて工夫することが大切。コミュニケーションを通じて相談しながら作り変えていけることがアナログゲームの魅力でもある」と語りました。参加者からは「細部にまで学べる配慮が行われていて驚いた」「ルールを独自で作れる自由さが工夫につながるものが分かった」等の感想が寄せられました。

■ 保育サポーター養成研修講演会 第2回「むかし遊びが『あたらしい』～こどもと仲良くなれる伝承遊び講座～」

【2020年1月29日（水）】 会場：大阪教育大学 参加：25名

講師：金坂 尚人（六甲道児童館 館長）

第2回は、金坂尚人氏を講師に招いて「遊び」と「学び」をつなげることをテーマに講演いただき、本学の学生や連携機関の職員のほか、地域の保育士の方等が参加しました。伝承遊びには、指先を使ったり指先を強くするための練習や工夫をする等、子ども達の成長に必要な要素が含まれていることをお話しされました。

実際にゴム飛び、めんこ、おはじき、コマ回し等の様々な伝承遊びを見て、聞いて、やってみるワークも取り入れられました。金坂氏は「今そこにある物でいかに工夫して遊ぶかというのがむかし遊びのいいところ。今ある物、環境でどのように工夫するのかは、これからの子どもたちにとっても大切なことだと思う」「子どもが、まず最初に自分からやってみようという風になること、その気持ちが一番大事」と語りました。参加者からは「こまを通して子どもたちの興味をひく方法や楽しみ方を教えていただき、子どもと接する時に取り入れたい」「こまにもいろんな技があり、できないと悔しいと感じた。このような経験を通して子どもが成長していくことが分かった」等の感想が寄せられました。



【SOGI への取り組み】

SOGI とは、Sexual Orientation and Gender Identity の頭文字で、「性的指向と性自認」と訳されます。どのような性の人を好きになるか（＝性的指向）と、自分の性をどのように捉えるか（＝性自認）という意味で、多様な性のあり方を正しく理解するために重要な考え方です。本事業でも SOGI への理解を深めるため、下記の取り組みを行いました。

■ 『性の多様性について考えてみましょう』リーフレット発行

積水ハウスでは2019年11月1日より「異性事実婚・同性パートナー人事登録制度」（配偶者と同等の関係にある異性事実婚や同性パートナーにも異性婚の配偶者と同様に社内規則や福利厚生制度の適用を行う制度）の運用を開始しました。この機会に正しい理解を深めるため、LGBTリーフレット『性の多様性について考えてみましょう』を作成しました。全従業員に配布し、企業倫理月間に読み合わせを行いました。正しい知識を全員が持つことで、更に誰もが働きやすい職場環境を目指します。



■ SOGI 啓発冊子『大学における SOGI の理解と対応』が完成しました

和歌山大学では、「和歌山大学における人権に関する基本理念」及び「和歌山大学における SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) の多様性に関する基本方針」を2019年11月22日に策定したのを契機に、連携機関の大学が共通して利用できる SOGI 啓発リーフレットを作成しました。このリーフレットが、学生が大学生活を送る上で多様な価値観を身につけ、多角的な視点を育み、互いの人格を尊重し合う精神を培う一助となることを願っています。



【研究支援員制度】

研究支援員制度は、出産・育児・介護を抱える女性研究者の研究支援のために、研究支援員（学生・院生・卒業生他）を配置する制度です。研究支援員は、研究者の監督・指示のもと支援業務を行います。研究支援員の登録対象者は、大阪市立大学、大阪府立大学、大阪教育大学、羽衣国際大学、奈良先端科学技術大学院大学に所属する研究者、学域・学部生、大学院生、卒業生、その他の登録希望者です。

登録後、大阪市立大学が研究支援員登録者の希望条件に応じたマッチングを行います。



【研究支援員制度の利用者数】

2019年度	研究支援員利用者	研究支援員
大阪市立大学	10名	16名
大阪教育大学	8名	15名
和歌山大学	2名	3名

【保育サポート事業】

大阪市立大学では、研究者の研究活動と家庭生活の両立支援のため、2015年より独自の保育サポート事業（夜間・休日保育、病児・病後児保育、学童保育利用料補助事業）を実施しています。大阪教育大学も2019年10月から保育サポート事業を開始しました。

2019年度	利用者	件数
大阪市立大学	6名	55件
大阪教育大学	2名	7件

【介護相談窓口】

連携機関の女性研究者・ポストドク・院生等を対象に、①介護問題解決のための具体的な手立てや専門知識の提供、②学外の地域包括支援セミナーや行政窓口等の紹介・連携、③相談員の育成を目的として、介護相談窓口を開設しました。また、介護ハンドブック解説動画「介護で仕事をあきらめないための介護と仕事の両立とは？」の基礎編を2019年10月30日に、応用編を2019年11月29日にYouTubeで公開しました。

相談件数：9件（大阪市立大学4件、積水ハウス株式会社5件）

【総合相談窓口】

大阪市立大学では、女性教員・研究員・大学院生のライフイベント、人間関係やキャリア形成、心身の不調や変化等、さまざまな悩みに応じて学内外の専門機関を紹介しています。今後一層、自治体やNPO法人等と連携していくことを検討しています。

相談件数：9件

【女性研究者ネットワークシステム（研究支援員人材データベース、SNS機能）の利用】

2013年度より、大阪市立大学では女性研究者ネットワークシステムを開発・運営し、大阪府立大学、大阪教育大学、羽衣国際大学、奈良先端科学技術大学院大学と共同利用しています。本システムは研究支援員人材データベースとソーシャル・ネットワーキング・サービスの二つの機能を持ち、利用者同士の交流の促進とコミュニティの構築を目指しています。自宅・スマートフォン・タブレットからもログイン可能となっています。

【広報・啓発活動】

2017年度に開設した本事業のホームページ< <https://diversity-oows.jp/> >を引き続き運用し、事業の周知・広報を推進しました。本ホームページでは、連携型共同研究の研究内容や、女性研究者のロールモデル、連携機関で開催されるイベントの紹介などを行っています。また、ニュースレター vol.5、vol.6 や、介護ハンドブック解説動画「介護で仕事をあきらめないための介護と仕事の両立とは？」（基礎編・応用編）をYouTubeで公開しました。





女性研究者の研究力向上・リーダー育成

【連携型共同研究助成】

連携型共同研究助成とは、連携機関（大阪市立大学、大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社）に所属する女性研究者を研究代表者とし、2 連携機関以上の研究者による共同研究に対して研究費の助成を行う事業です。実施要領に基づいて連携機関が共同で審査し、今年度は下記 24 件の研究課題を採択しました。

大阪市立大学…19 件 大阪教育大学…2 件 和歌山大学…2 件 積水ハウス株式会社…1 件

2019年度 連携型共同研究採択一覧

【大阪市立大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
吉田 朋子 複合先端研究機構 教授	銀ナノ粒子・銀ナノシエルの物性評価と形成メカニズムの解明	矢嶋 摂子 和歌山大学 システム工学部 教授
杉田 菜穂 経済学研究科 准教授	ダイバーシティ研究環境実現に関する調査研究	富田 晃彦 和歌山大学 教育学部 教授 淵上ゆかり 大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 特任助教
岩崎 昌子 理学研究科 准教授	物理学実験への深層学習の適用研究 ：データ処理技術開発および教育教材開発	深澤 優子 大阪教育大学 教育学部 准教授 住浜 水季 岐阜大学 教育学部 准教授・大阪大学 核物理研究センター 特任准教授 谷口 七重 高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 助教
西垣 順子 大学教育研究センター 准教授	ジェンダー平等を基軸にした大学評価のあり方についての研究 －学生・院生のキャリアデザイン支援を中心に－	飯吉 弘子 大阪市立大学 大学教育研究センター 教授 安達 智子 大阪教育大学 教育学部 准教授 山口 真紀 神戸学院大学 全学教育推進機構 講師 伊田 勝憲 立命館大学 教職研究科 教授
佐々木 洋子 大学教育研究センター 特任助教	「多様性」を複合的に理解するための領域協働型教育 －大学におけるダイバーシティ教育の実践のために－	西倉 実季 和歌山大学 教育学部 准教授 山口 真紀 神戸学院大学 全学教育推進機構 講師
足立 奈津子 理学研究科 准教授	赤褐色を呈するストロマトライト様構造の構築と海洋古環境の復元	廣木 義久 大阪教育大学 教育学部 教授
小関 珠音 都市経営研究科 准教授	工業地域の再生と「豊穡化の経済」 －場所の記憶、ツーリズム、コミュニティ、エコシステム－	藤田 和史 和歌山大学 経済学部 准教授 立見 淳哉 大阪市立大学 経営学研究科 准教授
早見 直美 生活科学研究科 講師	都市部中学生の主体的な健康食習慣の習得を目指した学校・家庭・地域連携型食育プログラムの実施と評価	福村 智恵 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授 柴田 亜樹 大阪教育大学 教育学研究科 特任准教授
小伊藤 亜希子 生活科学研究科 教授	家族縮小時代が nLKD 住宅に求めるもの －子供独立後の高齢者世帯を対象に－	村田 順子 和歌山大学 教育学部 教授 宮崎 陽子 羽衣国際大学 人間生活学部 准教授 松尾麻里子 阪急阪神不動産 住宅事業本部 住宅事業企画部
植松 千代美 理学研究科 准教授	ツバキ属植物の系統関係の再検討	岡崎 純子 大阪教育大学 教育学部 准教授
藤井 律子 複合先端研究機構 准教授	緑藻ミルの強光に対する光合成反応維持のための馴化メカニズムの解明	荒木 良一 和歌山大学 教育学部 准教授 竹田 恵美 大阪府立大学 理学系研究科 准教授
沼田 里衣 都市研究プラザ テニユアトラック特任准教授	図形楽譜を用いたインクルーシブな音楽教育に関する研究	上野 智子 和歌山大学 教育学部 准教授 菅 道子 和歌山大学 教育学部 教授 山崎由可里 和歌山大学 教育学部 教授
佐々木 八千代 看護学研究科 准教授	離島で生活する高齢者の認知機能、身体機能と生活状況との関連	白井みどり 大阪市立大学 看護学研究科 教授 野田さおり 大阪市立大学 看護学研究科 特任講師 北川 純子 大阪教育大学 教育学部 特任教授 柴田 亜樹 大阪教育大学 教育学研究科 特任准教授
小島 明子 生活科学研究科 准教授	食品の機能性に関する食育教材の構築 －栄養学・食品科学・教育学関連分野の横断的連携－	井奥 加奈 大阪教育大学 教育学部 教授 山本 奈美 和歌山大学 教育学部 教授 福田ひとみ 帝塚山学院大学 人間科学部 教授 松村 羊子 畿央大学 健康科学部 准教授
鍋島 美奈子 工学研究科 准教授	高床式砂栽培農業施設を活用した都市農業が社会、経済、環境に与える影響の分析 その3 持続可能性に関する評価指標の検討	佐久間康富 和歌山大学 システム工学部 准教授 内田 佐和 東レ建設 トレファーム事業推進室 次長
菅原 真弓 文学研究科 教授	阪和地域の文化資源に関する学際的研究	中島 敦司 和歌山大学 システム工学部 教授 村田 隆志 大阪国際大学 国際教養学部 准教授
小池 志保子 生活科学研究科 准教授	大阪町家・長屋のサイトスペシフィックな利活用に関する研究 国際交流の場としての活用に着目して	小伊藤亜希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授 福田 美穂 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授 碓田 智子 大阪教育大学 教育学部 教授 西川 章江 大阪教育大学 教育学部 准教授
上田 由喜子 生活科学研究科 准教授	高校野球選手のパフォーマンスと身体組成、トレーニングおよび栄養教育カリキュラムの研究	榎木 泰介 大阪教育大学 教育学部 准教授 小林 知未 帝塚山学院大学 人間科学部 講師 岡崎 和伸 大阪市立大学 健康科学イノベーションセンター 教授
山口 悦子 医学研究科 准教授	メディア・コンテンツを応用した医療的教育ツールの学習効果 および評価指標に関する研究	丁子かおる 和歌山大学 教育学部 准教授 掛屋 弘 大阪市立大学 医学研究科 教授 金子 幸弘 大阪市立大学 医学研究科 教授

【大阪教育大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
青木 宏子 教育学部 特任准教授	『美の力、芸術力によって、人を元気にする』実践と研究 —鑑賞における技能とは—	渡邊 美香 大阪教育大学 教員養成課程 准教授 高橋 暁生 積水ハウス株式会社 CSR 部 絹谷幸二 天空 美術館 研究員
岡崎 純子 教育学部 准教授	遺伝的に異なるキキョウ科ツリガネニンジン類の2変種の 実態と種分化過程の解明	名波 哲 大阪市立大学 理学研究科 准教授

【和歌山大学】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
秋元 郁子 システム工学部 准教授	先端 ESR 装置を活用した光キャリアおよび光誘起スピンの 研究	松岡 秀人 大阪市立大学 理学研究科 特任准教授
吉田 道代 観光学部 教授	日本における地方自治体による同性愛者のパートナーシップ 制度の導入と社会的影響	新ヶ江章友 大阪市立大学 人権問題研究センター 准教授

【積水ハウス株式会社】

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
河崎 由美子 住生活研究所 所長	多世帯居住に関する研究開発	王 飛雪 大阪市立大学 生活科学研究科 特任助教 小伊藤亜希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授

【産学官連携ウィメンズユニットによる共同研究プロジェクト】

2018年1月より、大阪市立大学生活科学研究科から積水ハウス株式会社総合住宅研究所（現、住生活研究所）に女性教員（特任教員1名）を派遣し、「産学官連携ウィメンズユニット（WUSO）」（積水ハウス株式会社住生活研究所長1名、大阪市立大学：教授1名、特任助教1名の計3名）による共同研究プロジェクトを実施しています。

2019年度は、子世帯と同居する親世帯を対象に、訪問調査（8件）を実施し、2018年度のアンケート調査（N=1236）により把握した同居の親世帯と子世帯の生活共同化の実態に加えて、住空間の使われ方や親世帯の意識について深掘りを行いました。毎月の定例ワーキングを開催し、研究推進を図りました。2018年度の研究結果を本年度の学会等（日本家政学会全国大会（3本）、ARAHE（1本）、日本建築学会近畿支部研究発表会（1本）、建築学会大会（3本））で発表しました。



【研究発表交流会】

■第1回研究発表交流会「文学の可能性—震災・移動・記憶—」

【2019年7月24日（水）】 会場：大阪市立大学 参加：52名

第1部 基調講演 リンダ・M・フローレス（オックスフォード大学 東洋学部教務ディレクター、日本語学 准教授）

「文学の可能性：3.11の記憶とこうの史代のマンガ『日の鳥』」

第2部 Kobe・Tohoku から発信される「語り」 玉川 侑香（詩人）

「瓦礫を越えて」（朗読パフォーマンス）

第3部 報告とパネルディスカッション

報告① 奥野 久美子（大阪市立大学 文学研究科 言語文化学専攻 准教授）

「〈震災文学〉さまざま—芥川龍之介・川端康成から東野圭吾・宮部みゆきまで—」

報告② 堀 まどか（大阪市立大学 文学研究科 文化構想学専攻 准教授）

「日本文学と〈鎮魂〉—戦後の文芸文化を中心に—」

報告③ 西岡 英子（大阪市立大学 女性研究者支援室 プログラムディレクター、特任准教授）

「震災とキオクカタリ—個人とコミュニティの回復の手がかりとして—」

文学の素材としての災害、災害による人間の身体および心の〈移動〉や変化、語り部や鎮魂・追悼のイベントなどに代表される〈記憶〉の紡ぎ方などについて、文学の可能性をさぐるシンポジウムを開催しました。第1部基調講演では、リンダ・M・フロレス准教授が、この文代のマンガ『日の鳥』を取り上げ、3.11の記憶を風化から守る方法のひとつ



としての文学の可能性について講演しました。第2部では、阪神淡路大震災を体験し、語り継ぎ活動を行ってきた詩人の玉川氏による「語り」と詩の朗読が披露されました。第3部では、奥野准教授が過去から現在に至るまでの作家が震災を文学作品の中でどう扱ってきたかを紹介し、震災を取り込んだ文学を「震災文学」という特殊なカテゴリーに閉じこめては、かえってその享受が不自由になりかねない、と指摘しました。続いて堀准教授が、日本文学と鎮魂について、シベリア抑留体験を題材とした文学作品の表現や記憶の扱われ方からの考察を報告しました。

パネルディスカッションでは、先の報告者3名に、ロバート・ティアニー教授（イリノイ大学 世界比較文学学科）と、土山和久教授（大阪教育大学 男女共同参画担当 学長補佐）を加え、会場の聴衆も巻き込んで活発な意見交換がなされました。



■第3回女性研究者研究発表交流会

【2019年9月26日（木）】 会場：新梅田研修センター 参加：42名

トークセッション「幸せ住まい」×「エシカルなライフスタイル」

登壇者：高津 玉枝（株式会社福市 代表取締役）

河崎 由美子（積水ハウス株式会社 住生活研究所 所長）

研究発表① 王 飛雪（大阪教育大学 生活科学研究科 特任助教）、平岡 千穂（積水ハウス株式会社）

「子育て視点から見た近居親子世帯のライフスタイル」

研究発表② 青木 宏子（大阪教育大学 教育学部 教員養成課程 美術教育講座 特任准教授）

「遊びの要素から考える幼児の造形活動の実践」

研究発表③ 秋元 郁子（和歌山大学 システム工学部 准教授）

「次世代半導体材料：ダイヤモンド結晶における光キャリアのマイクロ波計測」

女性研究者研究発表交流会は例年基調講演を行っていましたが、今回は新たな試みとして『「幸せ」×「エシカルなライフスタイル』』と題し、トークセッションを行いました。まず、高津玉枝氏よりフェアトレードのセレクトショッ

ブを立ち上げられるまでの経緯をお話いただきました。高津氏は、「より安く物を作り、より大量に物を消費すること＝豊か」という価値観が一般的だった時代に「それはおかしい」という自身のモヤモヤした気持ちに向き合い、自らフェアトレード商品をビジネスとして成り立つよう育てられました。困難に突き当たった時の乗り越え方など、フェアトレードビジネスの開拓者ならではの話を伺うことができました。続いて、河崎由美子氏は自身のキャリアについて講演されました。河崎氏は大学卒業後、積水ハウス株式会社に入社して以来、企業内研究者として活躍されてきました。現在は、2018年8月に発足した住生活研究所の所長として、「幸せ」を実感できる住まいや暮らし提案に向けた「住めば住むほど幸せ住まい」研究に携わっています。



起業家の高津氏と研究者の河崎氏。両者の根底には「人の幸せ」とは何かということにとことん向き合う姿勢がありました。分野は違えど、それぞれの領域で数多の困難を乗り越えながら「幸せ」を追求するお二人の話は示唆に富み、参加者は熱心に聞き入っていました。

【キャリア形成・研究力向上セミナー】

■女性研究者短期留学報告会

【2019年6月7日（金）】 会場：大阪市立大学 参加：20名

報告① 濱野 佐知子（大阪市立大学 理学研究科 准教授）

「ドイツ・フランスでの『開リーマン面のモジュライを用いた多変数関数論』の情報発信」

【2018年9月ストラスブール大学（フランス）、オーバーヴォルフアッハ数学研究所（ドイツ）に約3週間滞在】

報告② 東島 沙弥佳（大阪市立大学 医学研究科 助教）

「コアラのしっぽに魅せられて一しっぽで繋げた人と謎」

【2018年8月アデレード大学（オーストラリア）に約1か月滞在】

報告③ 齋藤 直子（大阪市立大学 人権問題研究センター 特任准教授）

「メキシコの研究者と交流して見えたこと」

【2018年9月メキシコ国立自治大学（メキシコ）に約3週間滞在】

女性研究者の国際的リーダー育成と大阪市立大学の研究・教育等の機能強化を目的に、『ふるさと寄付金を財源とした「グローバル人材育成事業（女性研究者支援）」女性研究者短期留学助成金』を受け、2018年度に短期留学した女性研究者3名より留学の成果報告がありました。3名とも生き生きと楽しそうに海外の受入先大学での経験をお話しされ、自身の研究や、研究に関わる人材ネットワークの構築など、大変充実した毎日を過ごされたことが伝わってきました。参加者からは、「もっと聞きたい」「機会があれば自分も応募したい」などの声が聞かれました。



■男女共同参画セミナー「リーダー育成のためのメンタリング～ダイバーシティ促進の仕組みづくりに！～」

【2019年6月26日（水）】 会場：大阪教育大学 参加：31名

講師：西岡 英子（大阪市立大学 女性研究者支援室 プログラムディレクター、特任准教授）

女性研究者比率や女性活躍推進の取り組みにおける諸外国と日本の比較をはじめ、子育て・介護時も研究を継続し、適正に評価するための女性研究者支援、リーダー育成・ダイバーシティ促進の方法としてのメンタリングの重要性について紹介されました。また、4～5名ずつのグループに分かれ、多様性社会のリーダーに必要な適性や、最近の課題・キャリア等について、ディスカッションを行いました。参加者にとってとても有意義な時間となりました。



■「英語論文の書き方」セミナー

【2019年6月27日（木）・28日（金）】

会場：和歌山大学図書館

参加：基礎編（6/28）30名、応用編（6/28）30名

講師：小野 義正（理化学研究所 創発物性科学研究センター）

小野義正氏を迎えて、ダイバーシティ研修「英語論文の書き方」【基礎編】【応用編】を開催しました。英語の発想法や作文技術から、英語論文の構成や査読者対策まで、豊富な具体例を交え実践的な内容でお話いただき、大変有意義な研修となりました。



■研究力向上のための外部資金獲得セミナー

【2019年8月22日（木）・9月3日（火）】

会場：大阪市立大学、大阪教育大学、和歌山大学

※テレビ会議システムで同時配信。和歌山大学は8/22（木）・9/3（火）

の両日、大阪教育大学は9/3（火）のみ

参加：（8/22）22名、（9/3）33名、DVD視聴者18名

個別支援（個別面談・申請書添削）：大阪市立大学9名、和歌山大学3名

講師：中安 豪（ロバスト・ジャパン株式会社 代表取締役）

国内初の民間URA組織として、大学や企業に向けた助成事業に関わるコンサルティングサービスを行うロバスト・ジャパン株式会社より講師を招き、2019年度科研費の概況と新様式について講演いただき、研究計画の検討のためのワークを行いました。希望者には個別支援として、個別面談と申請書の添削を行い、支援を受けた教員からは、「申請書の作成に当たり、とても参考になった」という声が聞かれました。



■女性研究者英語力向上のための英会話セミナー

【2019年9月24日（火）・25日（水）】

会場：和歌山大学 参加：初中級（9/24）5名、中上級（9/25）4名

講師：Gaba マンツーマン英会話 講師

女性研究者の英語力を向上させ、キャリア形成を支援するために、Gaba マンツーマン英会話による英会話セミナーを実施しました。1日目は初中級者向けに、プレゼンテーションの事前準備や効果的なスライドの作成方法等を学ぶ「プレゼンテーション（基礎）」と、会議など場面に応じた会話術を学ぶ「ソーシャライズ」を実施しました。2日目は中上級者向けに、プレゼンテーションで有用なフレーズや技術を学ぶ「プレゼンテーション（応用）」と、リスニング力とスピーキング力を強化する「ディベート」を実施しました。いずれも少人数制の講座で、受講者が相互に発表し、質疑応答を行うなど、実践的で密度の濃い学習を行うことが出来ました。



■研究力向上のための英語スピーキング・ライティングセミナー

【2019年11月27日（水）・28日（木）】 会場：大阪市立大学

参加：（11/27）31名、（11/28）31名

講師：小松 真奈美（ILC 国際語学センター大阪校 講師／医療通訳者・英語通訳案内士）

講師：ジョン・ノーラン（ILC 国際語学センター大阪校 ヘッドティーチャー）

女性研究者の英語力向上を目指し、ILC 国際語学センター大阪校より各日1名ずつ講師を招いて、英語セミナーを全2日間実施しました。第1日の「スピーキング力向上セミナー」では通訳メソッドを活用したトレーニングを、第2日の「英文ライティングセミナー」では英語データベース（COCA）を活用したライティング力強化のトレーニングを行い、ペア学習やグループ学習に熱心に取り組みました。



【女性研究者メンタープログラム】

「女性研究者メンタープログラム」とは、連携機関に所属する女性研究者（メンティ）が、知識や経験の豊かな指導者・助言者（メンター）から研究生活全般やキャリア形成等に関する支援・助言を受けられる体制を作り、問題解決のサポートを行うものです。メンティはキャリア意識の醸成、研究力やリーダーシップ育成、ライフイベントとの両立等の悩みや課題を相談することができます。さまざまな研究分野と多様な人材を有する連携機関が共同してメンタープログラムを実施することによって、メンティとメンターのマッチングを推進し、女性研究者ネットワークの構築につなげます。

【女性研究者外国語論文校閲・翻訳費助成事業】

女性研究者のキャリアアップには外国語論文の作成が必須となっています。女性研究者の国際的リーダー育成を目的に、研究スキルアップにつながる外国語論文校閲・翻訳に係る費用を支援しました。

- ・大阪市立大学 2019年4月8日～2020年2月末。上限4万円（税込み）
- ・大阪教育大学 2019年11月1日～2020年2月末。上限8万円（税込み）
- ・和歌山大学 2019年4月1日～2020年1月末。上限5万円（税込み）

【企業インターンシップ】

学生や博士研究員のキャリア形成や多様な進路選択を可能にするため、連携機関（大学）からポスドク1名、大学院生1名を積水ハウス株式会社へインターンシップ派遣しました。先進的な企業の支援制度や研究環境に触れることで、多様な視座と研究意欲を喚起しました。

【研究施設の共同利用】

2016年度から文部科学省補助事業「共同利用・共同研究拠点」の認定を受けた大阪市立大学人工光合成研究センター等と連携し、連携機関の女性研究者に対して積極的な研究施設（研究室、実験室、研究交流スペース、会議室等）の利用の促進を行っています。

IV

女性研究者の上位職登用促進

【女性管理職育成のためのキャリア研修／管理職研修】

女性研究者自らの上位職登用に関する意識啓発、また管理職を対象とした女性研究者の積極登用や管理職育成を目的とした意識改革を醸成するためのキャリア研修を実施しました。

■ダイバーシティ推進セミナー「研究者にとっての『キャリア・デザイン』『働き方改革』を考える」

【2019年12月18日（水）】 会場：大阪教育大学、大阪市立大学、和歌山大学

※テレビ会議システムにて中継 参加：42名

講師：森 仁美（公益財団法人 21世紀職業財団 客員講師）

第1部 研究者にとっての「キャリア・デザイン」

第2部 ワーク・ライフ・マネジメントによる「働き方改革」の実践

ダイバーシティ推進セミナーを大阪教育大学柏原キャンパスにて開催、大阪市立大学及び和歌山大学にはテレビ会議システムにて中継し、教職員42名が参加しました。今回は企業や自治体等でダイバーシティ推進のコンサルタント・研修講師として幅広く活躍する森仁美氏が、自律的なキャリア形成のポイントや働き方改革の実践に向けた取組みについて講演しました。

第一部の「研究者にとってキャリア・デザイン」では、家族・健康・自己成長・安心等30個のキーワードの中から自分にとって大切なものを15個選び、さらに5個に絞ることで未来に備えた自己の価値観分析に繋げ自分の内的キャリアに目を向けるワークを行いました。森氏は「自分のキャリアに興味を持ち内的キャリアを理解することや、今までの経験を振り返り肯定的に捉えなおすこと等、自分を育て、磨くのは自分自身であるという姿勢を『育自』と定義し、この姿勢が大切である」と話しました。第二部の「ワーク・ライフ・マネジメントによる『働き方改革』の実践」では、今なぜ働き方改革が必要とされているのかについて、調査データを基



に講演が行われました。森氏は「今や働き方改革は経営課題となっており、モチベーションが高まる取り組みが重要であり、そのステップとして足元の小さな目標から取り組んでいくことが大切である」と話しました。

参加者からは「自分のキャリアを見つめる新たな視点が身についた」「働き方改革について学内での実践を考える上で、他の人の意見や外部（企業）における現状を知る機会を得ることができた」等の感想が寄せられました。

■ダイバーシティ研修「性の多様性を認める自由なキャンパスをめざして」

【2020年2月14日（金）】 会場：和歌山大学 参加：68名

講師：田中 かず子（ファームメント代表、元 国際基督教大学 教授）

この研修では、和歌山大学において、2019年11月22日に「和歌山大学における人権に関する基本理念」及び「和歌山大学におけるSOGIの多様性に関する基本方針」を策定したのを契機に、ジェンダー研究の第一人者である田中かず子氏を講師にお招きし、大学においてSOGIの問題に具体的にどのように取り組んでいくべき



かをご講演いただきました。

「性」は人権として位置付けられること、SOGI への対応は当事者の有無に関わらず、今できることからまず取り組んでいくことが重要であり、教職員が動けば学生が変わり、キャンパスが変わる、積極的に学内外へ SOGI への取り組みを発信することが大切であるとお話がありました。質疑応答では、多くの質問が出され、今後 SOGI 対応に取り組む上で、大変有意義な研修となりました。



【女性研究者プロモーションメンタープログラム】

大阪市立大学は上位職の女性研究者を育成するため、2019年1月に上位職をメンターとする「プロモーションメンタープログラム」制度を導入しました。メンティとして選出した女性准教授4名に対して、メンターである役員相当職や部局長とのメンタリングを2019年9月から試行的に開始しています。

【クロスアポイントメント制度】

大阪市立大学は、クロスアポイントメント制度を2017年12月に導入し、制度未導入の共同実施機関（大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社）に紹介しました。女性教員2名がクロスアポイントメント制度により、大阪市立大学理学研究科に2019年2月、4月にそれぞれ着任し、大阪教育大学は2019年10月に制度を導入しました。

V

各連携機関のその他の取り組み

大阪市立大学

■女性研究者表彰制度 [岡村賞]

【2019年12月25日（水）】2014年度に創設した女性研究者表彰制度を継続し、優れた研究活動や教育活動及び男女共同参画推進に貢献した女性研究者3名を表彰しました。

第6回 大阪市立大学 女性研究者特別賞・奨励賞 [岡村賞] 受賞者

■特別賞

鍋島 美奈子（工学研究科 都市系専攻 教授）

岩崎 昌子（理学研究科 数物系専攻 准教授、南部陽一郎物理学研究所兼任）

■博士研究員奨励賞 該当なし

■大学院生奨励賞

辻 多重子（生活科学研究科 食・健康科学講座 後期博士課程3年）



■第14回女子中高生のための関西科学塾

【A日程：2019年7月21日（日）】参加：中高生137名、同伴者80名

【E日程：2019年12月22日（日）】参加：中高生28名、同伴者16名

「女子中高生のための関西科学塾」では、関西の国公立6大学が、大学の設備を使っての実験や、理系の先輩たちとの交流・講演などを通して、理系の世界の幅の広さや奥の深さ、その道に進む魅力を実感できる事業を通年で行っています。

■オープンキャンパス2019「理系女子学生による進路相談会」

【2019年8月10日（土）・11日（日）】

参加：両日あわせて284名（内、保護者98名）

杉本キャンパスのオープンキャンパスにあわせて「理系女子学生による進路相談会」を実施し、現役の女子学部生や女子大学院生が来場者の質問に応じました。特に入試の勉強方法や、大学での授業、学生生活についての質問が多く、学生スタッフがきめ細やかに対応しました。



学部ごとにコーナーを設け、学生スタッフの自己紹介ポスターや実験サンプル、模型、学部案内やシラバス、時間割などを展示しました。本事業を通じて大学院生と学部生の交流が図られ、院生生活や研究についての疑問や不安が解消するなど、大学院志望者にとってもメリットのある会となりました。

■女性研究者キャリアカフェ in 大阪市立大学

【2019年11月12日（火）】参加：22名

講師：山崎 有香（三洋化成工業株式会社 人事副本部長 兼ダイバーシティ推進部長）

インターンシップ報告：磯見 麻衣（大阪市立大学 生活科学研究科 後期博士課程2年）

日本経済新聞社主催で、本学が協力団体として参加している「日経ウーマノミクス・プロジェクト」の一環として「女性研究者キャリアカフェ」を開催しました。

大阪教育大学

■男女共同参画関連特別講義「ジェンダーとセクシャリティ」

【2019年7月8日（月）】参加：107名

講師：松岡 成子（NPO 法人 ASTA 共同代表理事）、田上 小百合（NPO 法人 ASTA）、原岡 春美（NPO 法人 ASTA）

愛知県を中心に教職員・保護者・児童生徒・企業に向けてLGBTをきっかけとした多様性や人権の啓発活動を展開するNPO法人ASTAより3名の講師をお招きし、学生計107名が参加しました。子どもにLGBTであることを打ち明けられた際の保護者の気持ちやその変化、留意すべきことなどを中心に、これから親の立場にも立つであろう学生に向けて話が展開されました。受講者は従来の知識の蓄積の上に知見を深めたようで、講師からも当該分野に関する知識の蓄積がある受講生に対して大変話しやすかったとの感想をいただきました。

■男女共同参画関連特別講義「キャリアデザイン」・「キャリア教育」

【2019年11月26日（火）・12月10日（火）・12月13日（金）】

参加：3日間計202名

講師：江口 舞（大阪府柏原市 職員）

「ポジティブな心で夢に向かおう」と題して、パラアスリートの江口舞氏に講演をいただきました。高校二年生の時に電車事故で左足の膝から下を失われた江口氏は、生きていくためのポジティブな心の作り方は、自らの前向きな考え方や努力の積み重ねの中で培われてきたとお話されました。受講生からは、「障がいという一つの個性を活かそうとする姿を見て自分自身も個性を最大限に活かせる人になりたい」「特別支援教育に携わるという目標に向け、自分らしく自分だからできることをしていこうと思った」等の感想が寄せられました。



■男女共同参画推進助成の実施

男女共同参画に関連した教育活動・研究活動及び実践活動に対する助成事業を学内公募し、ジェンダーによる学生の在籍者数に大きな偏りが見られる講座について、具体的なロールモデルの提示を通して教科・科目に対する固定的なジェンダーイメージを解消し、学生の可能性を広げる事業に対して助成を行いました。

和歌山大学

■「人権に関する基本理念」及び「SOGIの多様性に関する基本方針」を策定

学長のイニシアティブの下、2019年11月22日に「和歌山大学における人権に関する基本理念」及び「和歌山大学におけるSOGI（Sexual Orientation and Gender Identity）の多様性に関する基本方針」を策定し、公表しました。

■理系女子学生の進学に関する相談会、セミナーの開催

○オープンキャンパス・理系女子（リケジョ）相談コーナー 2019

【2019年7月14日（日）】参加：約10組、計約15名

オープンキャンパスの開催に際し、「理系女子（リケジョ）相談コーナー」を開設しました。来場された方からは、授業や研究、学生生活に関する質問や相談があり、本学のシステム工学部およびシステム工学研究科の在校生が対応しました。主に女子学生の割合、受験勉強の方法、進路、システム工学部におけるメジャー制による学びについての質問がありました。



○ランチタイムセミナー

【2019年10月24日（木）】参加：約20名

システム工学研究科の大学院生が研究内容を紹介するランチタイムセミナーを開催しました。システム工学部の学生たちが訪れ、ポスターやモニター、模型などで展示されている研究内容や、研究室での活動、学部メジャーでの学び、および大学院クラスタに関することなどについて、質問をしたり、説明を聞きました。



■観光分野の特色を活かした女性研究者による研究力向上セミナーの開催

○台湾における観光の現状と展望（Current and future trends of tourism in Taiwan）

【2020年1月20日（月）】参加：11名

講師：陳 意玲（Lynn I-Ling Chen）（台湾国立東華大学 観光・レクリエーション・レジャー学系 助教授）

国際観光学研究センター客員特別研究員の陳意玲助教授を迎え、台湾における観光の現状やトレンドについて講演いただきました。観光や旅行者に関するデータを元に観光や旅行そのものの変容や昨今のトレンド、主にマインドフルネスの観光体験について紹介し、参加者は日本と台湾の観光の共通点や違いについて議論を行いました。



■女性研究者研究支援経費

産休・育休・介護休暇明けの研究者への研究費助成のほか、女性教員が論文執筆した際の投稿料・掲載料や、国際学会で発表した際の交通費・宿泊費などの補助を実施しました。

積水ハウス株式会社

■「仕事と育児の両立いきいきフォーラム」

【2019年6月20日（木）】 参加：計1,500名

東京メイン会場から全国約100会場をWEB会議システムで繋ぐWEBフォーラム形式で開催し、3歳未満の子を持つ社員（男女）とその上司、社外パートナー、計1,500名が参加しました。講演、ワークショップ、パネルディスカッションを通して、育児中社員はそれぞれの「仕事も育児も上手く廻り出す育児戦略」について、上司は育児による制約がある社員のマネジメント、環境づくりについて考えました。



■「イクメンフォーラム」

【2019年9月19日（木）】 参加：計1,900名

「イクメン休業」制度の運用開始から1年を経過し、100%の取得を達成しました。そこでイクメン休業の成果や社内の変化、課題を社内外に発信するためフォーラムを東京都内で開催しました。日本の育休実態を調査した「イクメン白書2019」の発表や、当社の「イクメン休業」制度の取得状況の報告、そして産官学のそれぞれの立場からのパネルディスカッションなど、活発な議論が交わされました。メディア各社や一般企業の多くの参加者が参加し、社会を巻き込んで男性の育休休業を考える一日になりました。



■女性管理職候補者研修「積水ハウス ウィメンズカレッジ」

【2019年】5期生、6期生 参加：38名

管理職候補の女性を全国から選抜し、2014年より毎年実施しています。2年間のカリキュラムで確実に育成し、計画的かつ適正に実力ある女性の管理職登用を実現します。1年目は、経営視点を養うスキル学習によりマネジメントの本質を学び、2年目には、職場の課題を解決する経験学習により現場対応力を強化。目標である「管理職に相応しい経営視点・実力の向上」と「管理職資格昇格への意欲・自覚の醸成」の達成を目指します。

目標である「積水ハウスグループ全体で、女性管理職を2020年までに200人（5%）登用する」に対して、2019年度は208人となり、前倒しで達成しました。



VI

主な取り組み一覧

月	日	取 り 組 み
6月	7日	女性研究者短期留学報告会
	26日	男女共同参画セミナー「リーダー育成のためのメンタリング～ダイバーシティ促進の仕組みづくりに！～」
	27・28日	「英語論文の書き方」セミナー
7月	18日	第1回 連携機関連絡会議
	24日	第1回研究発表交流会「文学の可能性—震災・移動・記憶—」
8月	21・22日	学童保育プログラム「キッズサマーキャンパス2019」
	22日	研究力向上のための外部資金獲得セミナー
9月	3日	研究力向上のための外部資金獲得セミナー
	24・25日	女性研究者英語力向上のための英会話セミナー
	26日	第3回女性研究者研究発表交流会
10月	30日	介護ハンドブック解説動画「介護で仕事をあきらめないための介護と仕事の両立とは？」（基礎編） YouTube映像公開
11月	21日	第2回 連携機関連絡会議
	27日	保育サポーター養成研修講演会第1回「アナログゲームで育む子どものちから」
	27・28日	研究力向上のための英語スピーキング・ライティングセミナー
	29日	介護ハンドブック解説動画「介護で仕事をあきらめないための介護と仕事の両立とは？」（応用編） YouTube映像公開
12月	18日	ダイバーシティ推進セミナー「研究者にとっての『キャリア・デザイン』『働き方改革』を考える」
1月	29日	保育サポーター養成研修講演会 第2回「むかし遊びが『あたらしい』～こどもと仲良くなれる伝承遊び講座～」
2月	14日	ダイバーシティ研修「性の多様性を認める自由なキャンパスをめざして」

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
事業報告書 2019
南近畿から広がる新しい未来への扉

発行日 2020年3月
発行 大阪市立大学 女性研究者支援室
連絡先 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
Tel: 06-6605-3661
<https://diversity-oows.jp>

